

記入例

実績報告書

2022年 8月 〇〇日

大阪府知事様

住所や氏名等が変更になった場合は**氏名等変更届出書**の提出が必要です

届出者住所 大阪府〇〇市〇〇町1-1
〇〇ビル

氏名 株式会社〇〇
代表取締役 大阪 太郎
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

①府内に設置している事業所において使用した燃料並びに熱及び電気の量を原油換算した合計量が1,500キロリットル/年以上の特定事業者

大阪府気候変動対策の推進に関する条例第11条第1項の規定により、次のとおり届け出ます。

特定事業者の主たる業種	9食料品製造業	
該当する特定事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/>	大阪府気候変動対策の推進に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者
	<input type="checkbox"/>	大阪府気候変動対策の推進に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者
	<input checked="" type="checkbox"/>	大阪府気候変動対策の推進に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者
②連鎖化事業者のうち、当該連鎖化事業者が府内に設置している事業所及び当該加盟者が府内に設置している当該連鎖化事業に係る事業所において使用した燃料並びに熱及び電気の量を原油換算した合計量が1,500キロリットル/年以上の特定事業者		③府内に使用の本拠の位置を有する自動車(軽自動車、特殊自動車及び二輪自動車を除く。)を100台以上使用する特定事業者
事業所の概要	主に食料品の販売及び加工を行っており、大阪府内では1工場と2店舗、1配送センター、及び1支社を所有している。	
事業所の名称及び所在地	別紙のとおり	
温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策の実施状況	別紙のとおり	
温室効果ガスの排出の抑制に関する目標の達成状況	別紙のとおり	

連絡先	部署名	環境推進室環境対策課			
	電話番号	06-〇〇〇〇-〇〇〇〇			
	電子メールアドレス	〇〇@〇〇.co.jp			
※整理番号		※受理年月日	年	月	日

備考1 □のある欄には、該当する□内にレ印を記入してください。
2 ※印のある欄は、記入しないでください。

1 事業所の名称及び所在地

No.	名称	所在地			備考
1	大阪工場	A市	a町1-1	〇〇ビル 1階	延床面積 45,000㎡
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

注:
 このシートは原則、対策計画書と同じになりますが、
 事業所の追加・削除等があれば、記入してください。

以上、主な事業所（燃料並びに熱及び電気を合算したエネルギー使用量が、原油換算燃料等使用量で1,500キログラム/年以上の事業所

11	大阪支社	C市	c町3-3	〇〇ビル 3階	延床面積 1,000㎡
12	大阪南店	D市	d町4-5		延床面積 1,500㎡
13	大阪東店	E市	e町1-3		延床面積 1,300㎡
14	大阪配送センター	F市	f町2-4		延床面積 15,000㎡
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					

2 温室効果ガスの排出の抑制に関する目標の達成状況

(1) 計画期間

2019年	4月	1日	～	2022年	3月	31日	(3年間)
-------	----	----	---	-------	----	-----	-------

(2) 前年度におけるエネルギー総使用量及び温室効果ガス総排出量

区分	基準年度 (2018年度)	前年度 (2021年度)
エネルギー総使用量	187,536 G J	187,998 G J
原油換算	4,685 k L	4,698 k L
事業活動	10,153 t-CO ₂	10,014 t-CO ₂
経済的手法		
用した温室		
ガスの排出		
対策による		
削減量		
合計	0 t-CO ₂	0 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量	10,153 t-CO ₂	10,014 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)		10,780 t-CO ₂

計画書と同様に、基準年度におけるエネルギー総使用量や温室効果ガス総排出量等を入力してください。

内容 ()	削減率 ()	削減量 ()	前年度のエネルギー使用量及び温室効果ガ
府域の自	報告対象年度(提出年度の前年度)の削減率	万 t-CO ₂	
備考 事	記載欄には関数が入力されていますので自	t-CO ₂	
ス	動計算されます。		
	削減目標及び報告対象年度以前の削減率の		
	値については対策計画書及び届出済みの実		
	績報告書の数値を記載してください。		

(3) 温室効果ガスの削減率

区分	(2020年度)	第1年度 (2018年度)	第2年度 (2019年度)	第3年度 (2020年度)
選択	削減率 (排出量ベース)	%	%	%
レ	削減率 (原単位ベース)	3 %	1.2 %	3.5 %
削減率 (平準化補正ベース)	3 %	1 %	3.4 %	%
吸	%	%	%	%
備				

計画書と同様に区分を選択してください。

は、目標削減率において選択した排出量ベースまたは原単位ベースにより算

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()
基準年度 100 (単位:t) 前年度 105 (単位:t)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

大阪工場では生産量を、大阪工場以外の事業所では延べ床面積をそれぞれ原単位の分母として設定し、それらの重み付け合算により求めた換算生産量を全体の原単位として設定しました。

3 事業活動に係る温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解 (毎年度の実施状況を必ず記入してください。)

第1年度に大阪支社のほか全事業所のLEDへの入れ替え工事が完了し、第2年度の温室効果ガスの削減に寄与した。第3年度は受注が増えたことにより生産効率が向上し、原単位での目標を達成した。

毎年度の温室効果ガス排出抑制等のために主に実施した対策の内容を記載してください(特に前年度については具体的に記載してください)。目標以上に削減できている場合や計画どおりに削減が進んでいない場合の要因等についての見解を記入してください。

(2) 推進体制

・全社的に温暖化対策に取り組むため、環境マネジメントシステムを導入しています。
 ・社長を本部長とする地球温暖化対策推進本部を設置し、毎月対策の進捗状況を報告し、現状改善などを検討するとともに、店舗ごとに2ヶ月に一度温暖化防止に関する研修会を実施する等して、本体制を継続していきます。

排出抑制対策の推進組織、環境マネジメントシステムの導入、研修・教育等の実施体制等について記入してください。
 省エネ・省CO2活動推進のための体制を確立できていない場合、「4対策・評価」シートNo.4「推進体制の整備」は「実施済み」を選択できません。

4 重点対策実施率の算定と事業者評価

(1) 事業者情報

事業者名称 株式会社〇〇	業種 9食料品製造業
-----------------	---------------

「2 温室効果ガスの排出の抑制に関する目標の達成状況」の記載が反映されます。

(2) 削減状況と対策実施率

	目標年度	1年度目	2年度目	3年度目	実施率	評価
削減率	3.0 %	1.2 %	3.5 %	6.1 %	93.9 %	AA
平準化削減率	3.0 %	1.0 %	3.4 %	%		

原則対策計画書と同様にしてください。
2事業所以上になる場合は、「集計表参照」と記載し、併せて集計表を提出してください。

(3) 重点対策の実施状況 対象事業所 (**大阪工場**)

番号	区分	種類	項目	重点対策名	対策の実施状況	実施年度	実施内容
1	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	届出対応、 体制の整備	大阪府気候変動 の推進に関する の届出における対応			
2	GHG排出 人工排熱	必須	届出対応、 体制の整備	機器管理台帳の整備	実施済み	—	
3	GHG排出 人工排熱	必須	届出対応、 体制の整備	エネルギー使用量の 把握、管理	実施済み	—	
4	GHG排出 人工排熱	必須	届出対応、 体制の整備	推進体制の整備	実施済み	—	
5	平準化	必須	届出対応、 体制の整備	ピークカット、ピーク シフト対策の実施	実施済み	—	発電機を利用したピーク電力の削減を実施。
6	GHG排出 人工排熱	必須	届出対応、 体制の整備	オーナー・テナント 対策の実施	非該当	—	テナントを所持していない。
7	GHG排出 人工排熱	必須	設備の管 理・運用	ボイラーの空気比の 適正管理	実施済み	—	空気比が1.25～1.3と、適切な数値で運用している。
8	GHG排出 人工排熱	必須	設備の管 理・運用	ボイラーの効率管理	実施済み	—	点検記録をもとに、ボイラー群の効率の計算を年4回行い、効率化に努めている。
9	GHG排出 人工排熱	必須	設備の管 理・運用	ボイラーの圧力・温 度の管理	実施済み	—	月に1回のペースで、圧力・温度等を確認。
10	GHG排出 人工排熱	必須	設備の管 理・運用	蒸気配管のバルブ等 の保温	実施済み	—	蒸気配管において、断熱を行っている。
11	GHG排出 人工排熱	必須	設備の管 理・運用	熱源設備における空 気比の適正管理	実施済み	—	空気比が1.25～1.3と、適切な数値で運用している。
12	GHG排出 人工排熱	必須	設備の管 理・運用	熱源設備の効率管理	実施済み	—	熱源設備の効率を年2～3回程度確認している。
13	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備の管 理・運用	熱源設備の冷水出口 温度管理	実施済み	—	冷房期間には、低負荷時の冷水温度の値が真夏の値より高く設定、暖房期間には、低負荷時の温水温度が真冬の値より低く設定してる。
14	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備の管 理・運用	空調機の室内温度の 適正管理	実施済み	—	室内温度が、夏季：26℃、冬季20℃になるよう、空調機を稼働。
15	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備の管 理・運用	空調機の外気導入量 の適正管理	非該当	—	「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」に該当しない施設のため。
16	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備の管 理・運用	空調機のフィルターの 定期的な清掃	実施済み	—	管理標準により、月1回清掃を実施している。
17	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備の管 理・運用	温度検出器の適正管 理	実施済み	—	検出器は適切に配置している。
18	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備の管 理・運用	照明の運用管理	実施済み	—	管理標準により、消灯時間帯・照度の目標値を設定している。
19	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備の管 理・運用	ポンプの流量管理の 評価	予定なし	—	該当するポンプの数が多いので、計画期間中に全台実施するのは難しい。

全ての項目の実施状況を必ず記入してください。

最終年度は「実施予定」は選択できません。また、計画期間内に実施しなかった対策は「予定なし」を選択してください。

重点対策の削減率は「重点対策マニュアルブック」を参照してください。
●「予定なし」「非該当」の場合は理由を必ず記入してください。「実施済み」「実施予定」の場合は対策内容を記入してください。

20	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備の管理・運用	ファン、ブロワの風量管理の評価	実施済み	—	風量の管理方法を設定しており、管理標準で定めた方法で運用している。
21	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備の管理・運用	地下駐車場の換気管理	非該当	—	地下駐車場が無いため。
22	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備の管理・運用	給湯設備の適正管理	実施済み	—	貯湯温度を75℃に設定しており、省エネモード時間を設定している。
23	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備の管理・運用	コージェネレーションの効率管理	非該当	—	コージェネレーションシステムを保有していない。
24	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備の管理・運用	コンプレッサの吐出圧の適正化	実施済み	—	コンプレッサの吐出圧と使用設備の圧力差が0.05MPaと、適切に管理している。
25	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備の管理・運用	コンプレッサの吸気温度管理	予定なし	—	コンプレッサー室の構造上、計画期間での実施は難しい。
26	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備の管理・運用	圧縮空気配管図の整備	実施済み	—	配管図により工場内の圧縮空気の配管を把握している。
27	GHG排出 人工排熱	必須	自動車の管理・運用	エコドライブの励行	実施済み	—	職員研修の実施。
28	GHG排出 人工排熱	必須	自動車の管理・運用	自動車の適正な維持管理	実施済み	—	点検・整備マニュアルを用いて、自動車運転者に適切な維持管理を周知している。
29	GHG排出 人工排熱	必須	自動車の管理・運用	自動車の燃料使用量の把握	実施済み	—	燃料使用量及び走行距離を車両別に定期的に把握している。
30	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	省エネ機器等の導入	高効率な照明設備の導入	実施済み	—	工場内照明はすべてLED化している。
31	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	省エネ機器等の導入	高効率な高輝度放電ランプ等の導入	実施済み	—	対象となる水銀灯について、全て高効率放電ランプに交換している。
32	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	省エネ機器等の導入	高効率機器の導入	非該当	—	計画期間中に高効率機器の導入を予定していないため。
33	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	省エネ機器等の導入	エネルギー管理システムの導入	実施済み	—	エネルギー管理システムを導入している。
34	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	省エネ機器等の導入	太陽光発電の導入	非該当	—	屋上に設置スペースがないため。
35	GHG排出 人工排熱	必須	省エネ機器等の導入	エコカーの導入	実施済み	—	電気自動車1台、ハイブリッド自動車1台を導入済み。また、2018年度にハイブリッド自動車を1台導入。
36	GHG排出	必須	府が推進する温室効果ガス排出抑制	カーボン・オフセットの実施	非該当	—	温室効果ガスの削減は順調に進んでおり、計画の最終年度に3%の削減を達成できる見込みであるため。
37	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	府が推進する温室効果ガス排出抑制	省エネ診断の実施	実施済み	—	2016年3月に省エネ診断を受診し、「蒸気配管の保温」を提案されたのを受け、2016年9月に断熱材をまくことで、対応した。
38	GHG排出	必須	府が推進する温室効果ガス排出抑制	環境配慮製品の開発・製造	非該当	—	製品の開発・製造部門を有していない。
39	人工排熱	必須	府が推進する温室効果ガス排出抑制	ヒートアイランド対策の実施	実施予定	—	外壁面の緑化を実施した。
40	GHG排出 人工排熱	選択	その他の項目	計画期間外の温室効果ガスの大幅な削減	該当	—	2017～2019年度の計画期間において、2016年度比で11.1%（原単位ベース）の削減を達成できた。
41	GHG排出	選択	その他の項目	事業者独自の取組み	実施済み	—	公共交通機関の積極的な利用、自転車の活用。

実施数(実施予定等含む)	31
該当項目数	33

5 前年度のエネルギー使用量及び温室効果ガス排出量

(1) 主な事業所分

①事業所の名称及び所在地

No.	名称	所在地	
1	大阪工場	A市	a町1-1

②前年度におけるエネルギー使用量

エネルギーの種類	単位	(2021)年度				
		エネルギー使用量(A)		販売エネルギー量(B)		(A)-(B)
		数値	熱量 (GJ)	数値	熱量 (GJ)	熱量 (GJ)
原油 (コンデンセートを除く)						0
コンデンセート						0
ガソリン						0
灯油	kL					0
軽油	kL	100	3,770			3,770
A重油	kL					0
LPG	t					0
LNG	t					0
都市ガス	km ³	1,200	54,000			54,000
産業用蒸気	GJ					0
蒸気 (産業用蒸気以外)						0
温水						0
冷水						0
その他 (**)			0			0
その他 (**)			0			0
その他 (**)			0			0
その他 (**)			0			0
その他 (**)			0			0
その他 (**)			0			0
その他 (**)			0			0
小計 (GJ)			57,770			57,770
電気事業者	昼間買電	千kWh	5,600	55,832		55,832
	(平準化時間買電)	千kWh	2,750	27,418		27,418
	夜間買電	千kWh	3,000	27,840		27,840
その他	上記以外	千kWh				0
	**	千kWh				0
	**	千kWh				0
	自家発電	千kWh				0
小計 (GJ)			88,672			88,672
合計 (GJ)			141,442			141,442
原油換算 (kL)			3,649			3,649

100kLの場合、"100"を記入してください。

100kL × 37.7GJ/kL (単位発熱量) = 3,770GJが自動計算されます。

注: 計画期間中は、対策計画書と同じ単位発熱量、CO2排出係数を用いてください。

電力の自由化に伴い、電力事業者の数が増えましたので、電力の買電量(昼間、夜間、平準化時間)は、「5-2電力入力用(主な事業所)」シートに入力してください。入力すると、こちらのセルに反映されます。

〈プルダウン選択〉
温暖化対策指針別表第2に示す小売電気事業者以外の発電事業者で、登録特定送配電事業者等から電気を購入した場合に選択してください。

単位発熱量、CO₂排出係数は対策指針で示した値が入力されています。独自の根拠により数値を変更するときは、直接数値を変更入力してください。

変更	単位発熱量	変更	CO ₂ 排出係数	CO ₂ 排出量
	38.2		0.0686	0.00
	35.3		0.0675	0.00
	34.6		0.0671	0.00
	36.7		0.0678	0.00
	37.7		0.0686	258.62
	39.1		0.0693	0.00
	50.8		0.059	0.00
	54.6		0.0495	0.00
	45.0		0.0509	2748.60
	1.02		0.06	0.00
			0.057	0.00
			0.057	0.00
			0.057	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	9.97		0.499	2795.80
	9.97		0.497	410.37
	9.28		0.509	1527.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	9.76			0.00

③前年度における温室効果ガス排出量

区分	(2021)年度
エネルギーの使用によって発生する二酸化炭素の排出量	7,330 t-CO ₂
その他 () の排出量	t-CO ₂
()	CO ₂
()	CO ₂
()	CO ₂
()	CO ₂
合計	7,330 t-CO ₂

上記以外の二酸化炭素、及びメタン、一酸化二窒素、六フッ化窒素、三フッ化窒素について、排出量が多い場合に入力してください。また計算過程の根拠資料を併せて提出してください。

電力量入力(主な事業所)

事業所名	電気事業者		買電量(千kWh)	うち平準化時間帯 買電量(千kWh)	合計買電量 (千kWh)	単位発熱量 (GJ/千kWh)	CO ₂ 排出係数 (t-CO ₂ /千kWh)	熱量(GJ)	うち平準化時間帯 熱量(GJ)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	うち平準化時間帯 CO ₂ 排出量(t- CO ₂)	合計CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)
1 大阪工場	001関西電力株式会社から供給された電気	昼間	5,000	2,400	8,000	9.97	0.509	49,850	23,928	2,545	1,222	4,072
		夜間	3,000	—		9.28		27,840	—	1,527	—	
	048株式会社エネットから供給された電気	昼間	600	350	600	9.97	0.418	5,982	3,490	251	146	231
		夜間	0	—		9.28		0	—	0	—	
	**		昼間	0	0	0	9.97	0	0	0	0	0
	**		夜間	0	0	0	9.28	0	0	0	0	0
	**	電気事業者を 選択してください。		0	0	0	9.97	0	0	0	0	0
	**	電気事業者ごとの昼間買 電量、平準化時間帯買電 量、夜間買電量を記載し てください。		0	0	0	9.28	0	0	0	0	0
	**	<平準化時間帯買電量> 夏季(7~9月)及び冬季(12~3月) の8~22時における買電量を記載し てください。		0	0	0	9.97	0	0	0	0	0
	**			0	0	0	9.28	0	0	0	0	0
	合計	昼間	5,600	2,750	8,600	—	—	55,832	27,418	2,796 (排出係数) 0.499	1,368 (排出係数) 0.497	4,323
		夜間	3,000	—		27,840		—	1,527 (排出係数) 0.509	—	(排出係数) 0.503	
**		昼間	0	0	0	9.97	0	0	0	0	0	0
**		夜間	0	0	0	9.28	0	0	0	0	0	0
**		昼間	0	0	0	9.97	0	0	0	0	0	0
**		夜間	0	0	0	9.28	0	0	0	0	0	0
**		昼間	0	0	0	9.97	0	0	0	0	0	0
**		夜間	0	0	0	9.28	0	0	0	0	0	0
	合計	昼間	0	0	0	—	—	0	0	0 (排出係数) 0.000	0 (排出係数) 0.000	0
		夜間	0	—		0		—	0 (排出係数) 0.000	—	(排出係数) 0.000	

(2) (1)以外の事業所分の合計
①前年度におけるエネルギー使用量

年間エネルギー使用量が1,500kL未満の事業所が複数ある場合は別途集計表を提出してください。

単位発熱量、CO₂排出係数は対策指針で示した値が入力されています。その根拠により数値を変更するときは、直接数値を変更入力してください。

エネルギーの種類	単位	(2021)年度 エネルギー使用量 (販売エネルギー量を減じた量)		変更	単位 発熱量	変更	CO ₂ 排出係数	CO ₂ 排出量	
		数値	熱量 (GJ)						
原油 (コンデンセートを除く)	k L		0		38.2		0.0686	0.00	**
コンデンセート	k L		0		35.3		0.0675	0.00	11
ガソリン	k L		0		34.6		0.0671	0.00	12
灯油	k L	20	734		36.7		0.0678	49.77	13
軽油	k L		0		37.7		0.0686	0.00	14
A重油	k L		0		39.1		0.0693	0.00	15
LPG	t		0		50.8		0.059	0.00	16
LNG	t	50	2,730		54.6		0.0495	135.14	17
都市ガス	千m ³							0.00	18
産業用蒸気	GJ							0.00	19
蒸気 (産業用蒸気以外)	GJ							0.00	20
温水	GJ		0		1.36		0.057	0.00	21
冷水	GJ		0		1.36		0.057	0.00	22
その他 (**)	-		0		0		0	0.00	23
その他 (**)	-		0		0		0	0.00	24
その他 (**)	-		0		0		0	0.00	25
その他 (**)	-		0		0		0	0.00	26
その他 (**)	-		0		0		0	0.00	27
その他 ()			0					0.00	28
その他 ()			0					0.00	29
小計 (GJ)			3,464						30
電気事業者	昼間買電 千kWh	3,500	34,895		9.97		0.556	1946.50	31
	(平準化時間買電) 千kWh	2,150	21,436		9.97		0.551		32
	夜間買電 千kWh	250	2,320		9.28		0.606		33
その他	上記以外の買電 (**)				0		0	151.55	34
	電 (**)				0		0	0.00	35
	自家発電 (**)				0		0	0.00	36
小計 (GJ)			37,215		9.76		0.00	0.00	37
合計 (GJ)			40,679					0.00	38
原油換算 (k L)			1,049						39

注: 計画期間中は、対策計画書と同じ単位発熱量、CO₂排出係数を用いてください。

電力の自由化に伴い、電力事業者の数が増えましたので、電力の買電量(昼間、夜間、平準化時間)は、「6-2電力入力用(その他事業所)」シートに入力してください。入力すると、こちらのセルに反映されます。

〈ブルダウン選択〉
温暖化対策指針別表第2に示す小売電気事業者以外の発電事業者で、登録特定送配電事業者等から電気を購入した場合に選択してください。

③前年度における温室効果ガス排出量

区分	(2021)年度
エネルギーの使用によって発生する二酸化炭素の排出量	2,283 t-CO ₂
その他 () の排出量	t-CO ₂
()	t-CO ₂
()	t-CO ₂
()	t-CO ₂
()	t-CO ₂
合計	2,283 t-CO ₂

上記以外の二酸化炭素、及びメタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン、六ふっ化窒素、三ふっ化窒素について、排出量が多い場合に入力してください。

非エネ
メタン
一酸化
ハイド
パーフ
六ふっ
三ふっ

電力量入力(その他事業所)

その他事業所が複数ある場合は、内訳表(添付資料)の提出が別途必要です。

電気事業者		買電量(千kWh)	うち平準化時間帯買電量(千kWh)	合計買電量(千kWh)	単位発熱量(GJ/千kWh)	CO ₂ 排出係数(t-CO ₂ /千kWh)	熱量(GJ)	うち平準化時間帯熱量(GJ)	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	うち平準化時間帯CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	合計CO ₂ 排出量(t-CO ₂)
001関西電力株式会社から供給された電気	昼間	2,000	1,350	2,000	9.97	0.509	19,940	13,460	1,018	687	1,018
	夜間	0	—		9.28		0	—	0	—	
096新日鉄住金エンジニアリング株式会社から供給された電気	昼間	500	300	550	9.97	0.683	4,985	2,991	342	205	376
	夜間	50	—		9.28		464	—	34	—	
140その他の電気事業者から供給された電気	昼間	1,000	500	1,200	9.97	0.587	9,970	4,985	587	294	704
	夜間	200	—		9.28		1,856	—	117	—	
**	昼間	0	—	0	9.97	0	0	0	0	0	0
**	夜間	0	—	0	9.28	0	0	—	0	—	0
**	昼間	0	—	0	9.97	0	0	0	0	0	0
**	夜間	0	—	0	9.28	0	0	—	0	—	0
**	昼間	0	—	0	9.97	0	0	0	0	0	0
**	夜間	0	—	0	9.28	0	0	—	0	—	0
**	昼間	0	—	0	9.97	0	0	0	0	0	0
**	夜間	0	—	0	9.28	0	0	—	0	—	0
合計	昼間	3,500	2,150	3,750	—	—	34,895	21,436	1,947 (排出係数) 0.556	1,186 (排出係数) 0.551	2,098
	夜間	250	—		2,320		—	152 (排出係数) 0.606	—	— (排出係数) 0.559	

電気事業者を選択してください。

電気事業者ごとの昼間買電量、平準化時間帯買電量、夜間買電量を記載してください。

<平準化時間帯買電量>
夏季(7~9月)及び冬季(12~3月)の8~22時における買電量を記載してください。

電気事業者ごとの「買電量」及び「うち平準化時間帯買電量」を入力すると自動計算されます。

(3) 事業者で使用する自動車分の合計
①前年度におけるエネルギー使用量

自動車を使用しており、事業所が複数ある場合は集計表を提出してください。
規則の3条1号及び2号に該当する場合は社用車全てを記入してください。

係数は対策指針で示した値が入力されています。
を変更するときは、直接数値を変更入力してくだ
さい。「レ」が入りますので、その値を採用した根拠を

エネルギーの種類	単位	(2021)年度				変更	単位 発熱量	変更	CO ₂ 排出係数	CO ₂ 排出量
		エネルギー使用量		台数 (台)						
		数値	熱量 (GJ)	総台数	うち、軽自動車を除く台数					
ガソリン	kL	50	1,730	40	37	34.6	0.0671	116.08		
E3ガソリン	kL		0			34.6	0.0654	0.00		
バイオガソリン	kL		0			34.6	0.0668	0.00		
軽油	kL	110	4,147	50	40	37.7	0.0686	284.48		
LPG	t		0			50.8	0.059	0.00		
都市ガス	千m ³		0			45.0	0.0509	0.00		
その他 ()			0					0.00		
その他 ()			0					0.00		
その他 ()			0					0.00		
合計 (GJ)								400.57		

50kLの場合、「50」を記入してください。

天然ガス車が該当します。

2019年度の3月末時点の台数を記入してください。

注: 計画期間中は、対策計画書と同じ単位発熱量、CO₂排出係数を用いてください。

数値把握の方法

- レ 燃料法 (直接、燃料使用量を把握する方法) によるもの
- 燃費法 (車両の燃費と走行距離により燃料使用量を把握する方法) によるもの
- その他の方法 ()

※燃費法を選択した場合

※その他の方法
トンキロ法(車種ごとに輸送重量、輸送距離、燃料使用量といった実測データ等をもとに輸送トンキロ当たりの燃料使用量(原単位)を求めておき、その原単位をもとに年間の輸送トンキロから燃料使用量を把握する方法)などがあります。

②前年

エネルギーの使用によって発生する二酸化炭素の排出量	401 t-CO ₂
---------------------------	-----------------------